

インプルーブメントレクチャー

H27.12.1 於 岡崎信用金庫本部2階大ホール

株式会社 日本レーザー
代表取締役社長 近藤 宣之 氏



平成26年4月の本部総会基調講演に招聘した法政大学大学院教授 坂本 光司氏のベストセラー「日本でいちばん大切にしたい会社」第3版で紹介された株式会社日本レーザー代表取締役社長 近藤宣之氏にお越しいただきました。

株式会社日本レーザーは、MEBOにより親会社からの独立を果たされた、社員全員が株主という非常に珍しい会社です。社員全員が株主であることが、働く人たちのモチベーションを高め、企業を活性化させる秘訣であり、人に優しい経営を物語っています。

近藤社長は、自身の経営と坂本先生が提唱される徹底して社員を大切にする経営との違いを、ダイバーシティ=多様性であるとし、自身の経営を「進化した日本的経営=ダイバーシティ経営」と呼びます。

近藤社長が実践しているダイバーシティ経営とは、国籍・性別・学歴など異質・多様な人材を大切にする経営です。採用は、新卒一括採用をせず通年採用のため、転職者が殆どでありながら、同社からの転職はゼロであり、また、女性活用が叫ばれる以前より女性の能力に注目され、経営幹部の半数が女性、妊娠・出産での退職者はゼロだそうです。中小企業にとって、人材の獲得が困難となっている現在、同社の具体的な取組みや「ロールモデル」を、数多くご紹介いただき、学び・気付きの多い講義であったと思われます。なかでも、「ロールモデル」紹介で、役職や担当業務名ではなく、「〇〇さん」と個人名で紹介されたことが印象的でした。

経営者の姿勢について、多くの苦勞をされてきた近藤社長ならではの言葉「自利から他利へ」「他責から自責へ」「傲慢から謙虚」は、いずれも心を打つものでした。

「悪い報告を受ける時にも笑顔でいられるものですか？」という会員の方からの質問に対し、近藤社長は、「社員が“お話があります”ときたら、おいでなすつたと覚悟を決めるのです。

会社は聖域であるから、入る前にエレベーターの鏡で、口角が上がっているか笑顔でいるか、いつもチェックし気合を入れています。」とにこやかに答えてくださいました。容易に実践されているように思われる近藤社長でさえ、日々努力されていると聞くと、ほっとします。

今回の講演をきっかけに、塾生会会員である経営者の皆様が、社員から誇らしいと思われる経営者になられること、思われ続けることを願っています。

